

株式会社南都銀行が実施する 株式会社奥村組に対する ポジティブ・インパクト・ファイナンスに係る第三者意見

株式会社日本格付研究所（JCR）は、株式会社南都銀行が株式会社奥村組に実施するポジティブ・インパクト・ファイナンスに対し、第三者意見書を提出しました。

<要約>

本第三者意見は、株式会社南都銀行（南都銀行）が株式会社奥村組（同社）に実施するポジティブ・インパクト・ファイナンス（本ファイナンス）に対して、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が策定した「PIF原則」及び「資金用途を限定しない事業会社向け金融商品のモデル・フレームワーク」（モデル・フレームワーク）への適合性、並びに環境省のESG金融ハイレベル・パネル設置要綱第2項(4)に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォース（PIF TF）が纏めた「インパクトファイナンスの基本的考え方」との整合性を確認したものである。JCRは、PIF第4原則で推奨されている評価の透明性及び客観性確保のため、独立した第三者機関として、(1)本ファイナンスの合理性及び本ファイナンスに基づくファイナンスのインパクト、並びに(2)南都銀行のPIF評価フレームワーク及び本ファイナンスのPIF原則に対する準拠性等について確認を行った。

(1)本ファイナンスの合理性及び本ファイナンスに基づくファイナンスのインパクト
同社は土木事業、建築事業、投資開発事業を主な事業とする総合建設会社である。同社は、「『堅実経営』と『誠実施工』を信条に、社会から必要とされ続ける企業として、社業の発展を通じ広く社会に貢献する」ことを経営理念に掲げており、時代の趨勢、経営環境の変化に柔軟かつ迅速に対応して経営基盤の強化を図り、株主の期待に応え、ひいては社会に貢献することを基本方針としている。同社は、今後も長期的に事業を継続し、社会の持続的な発展に貢献するため、将来のありたい姿を示す「2030年に向けたビジョン」を策定している。同社は、「2030年に向けたビジョン」の実現を目指し、ESG/SDGsへの取り組みを強化している。具体的には、ESG/SDGsに関わるリスクと機会を特定し、それらが顕在化した場合のインパクトを分析したうえで、重要課題を整理している。

本ファイナンスでは、同社の事業活動全体に対する包括的分析が行われた。同社のサステナビリティ活動も踏まえ、インパクト領域につき特定のうえ「(1)環境への配慮と調和の取り組み」、「(2)ダイバーシティ経営&ディーセントワークの推進に向けた取り組み」、「(3)安心安全な労働環境の整備と誰もが働きやすい職場環境創出に向けた取り組み」及び「(4)サプライチェーンにおける協力会社との連携」の4項目のインパクトが選定された。そして、各インパクトに対してKPIが設定された。インパクト(1)~(4)は、いずれも同社のマテリアリティに係るものである。今後、これら4項目のインパクトに係るKPI等に対して、モニタリングが実施される予定である。

JCRは、本ファイナンスにおけるインパクト特定の内容について、モデル・フレームワークに示された項目に沿って確認した結果、適切な分析がなされていると評価している。また、本ファイナンスのKPIに基づくインパクトについて、PIF原則に例示された評価基準に沿って確認した結果、多様性・有効性・効率性・追加性が期待されると評価している。当該KPIは、上記のインパクト特定及びサステナビリティ活動の内容に照らしても適切である。さらに、本ファイナンスにおけるモニタリング方針について、本ファイナンスのインパクト特定及びKPIの内容に照らして適切であると評価している。従ってJCRは、本ファイナンスにおいて、持続可能な開発目標（SDGs）に係る三側面（環境・社会・経済）を捉えるモデル・フレームワークの包括的インパクト分析（インパクトの特定・評価・モニタリング）が、十分に活用されていると評価している。

(2) 南都銀行のPIF評価フレームワーク及び本ファイナンスのPIF原則に対する準拠性

JCRは、南都銀行のPIF商品組成に係るプロセス、手法及び社内規程・体制の整備状況、並びに同社に対するPIF商品構成について確認した結果、PIF原則における全ての要件に準拠していると評価している。また、本ファイナンスは「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合的であると評価している。

以上より、JCRは、本ファイナンスがPIF原則及びモデル・フレームワークに適合していること、また「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合していることを確認した。

* 詳細な意見書の内容は次ページ以降をご参照ください。

第三者意見

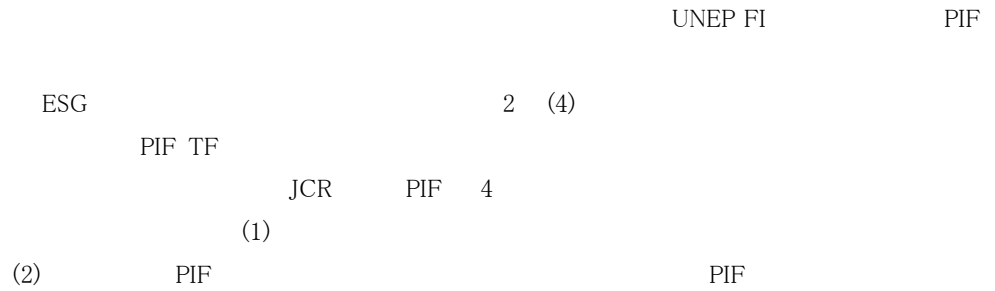
評価対象: 株式会社南都銀行の株式会社奥村組に対する
ポジティブ・インパクト・ファイナンス

2024年9月30日
株式会社日本格付研究所

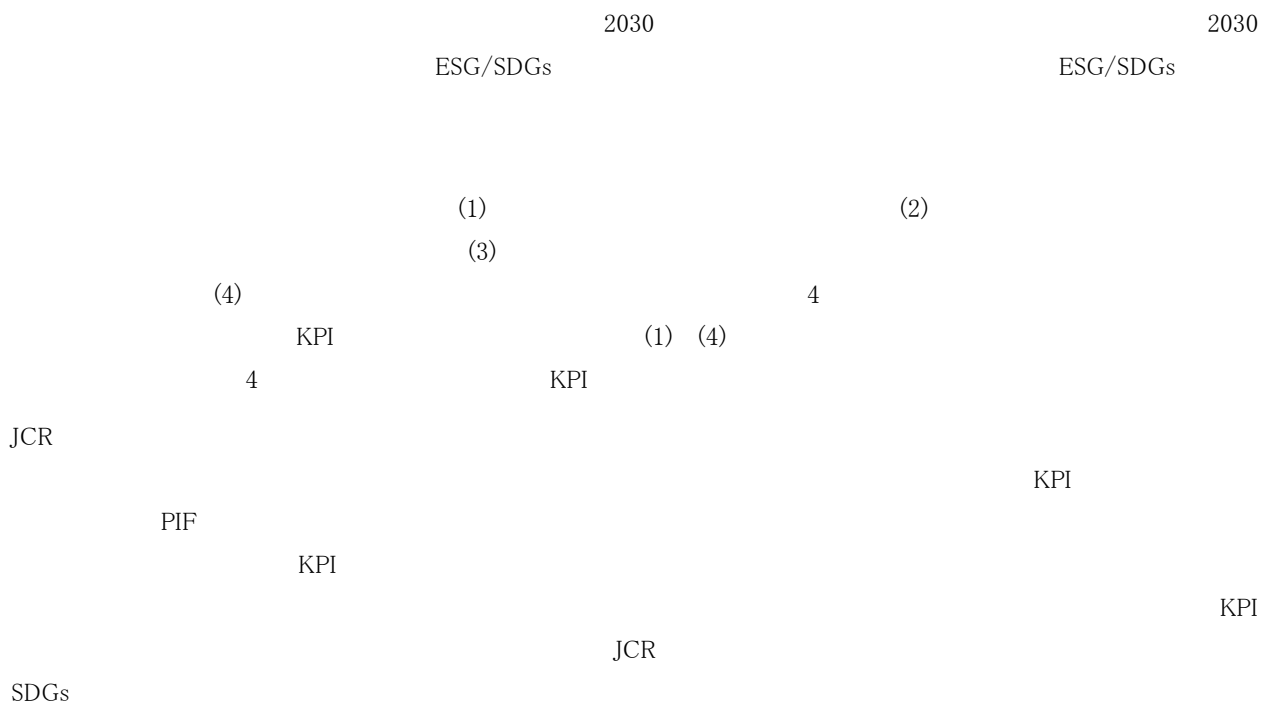
目 次

<要約>.....	3
I. 第三者意見の位置づけと目的	4
II. 第三者意見の概要.....	4
III. 本ファイナンスの合理性等について	5
1. 奥村組の概要等	5
1-1. 事業概要	5
1-2. 同社の経営理念等.....	10
1-3. サステナビリティに関する体制及び運営方法に対する意見.....	13
1-4. サステナビリティ活動	15
2. インパクト特定の適切性評価	24
2-1. 包括的分析とインパクトエリア/トピック	24
2-2. 個別インパクトの評価.....	26
2-3. JCR による評価.....	29
3. KPIの適切性評価及びインパクト評価.....	30
3-1. KPI 設定の概要.....	30
3-2. JCR による評価.....	46
4. サステナビリティ経営体制.....	49
5. モニタリング方針の適切性評価.....	49
6. モデル・フレームワークの活用状況評価.....	49
IV. PIF 原則に対する準拠性等について	50
1. PIF 第 1 原則 定義.....	50
2. PIF 第 2 原則 フレームワーク.....	51
3. PIF 第 3 原則 透明性.....	52
4. PIF 第 4 原則 評価.....	52
5. インパクトファイナンスの基本的考え方.....	52
V. 結論.....	53

<要約>



(1) 本ファイナンスの合理性及び本ファイナンスに基づくファイナンスのインパクト



(2) 南都銀行の PIF 評価フレームワーク及び本ファイナンスの PIF 原則に対する準拠性等

